



ものづくり体感事業

11月29日(水)、5年生が「ものづくり体感事業」に参加しました。

この事業は群馬県職業能力開発計画に基づいた人材育成をねらいにしたものです。毎年県内で5校の小学校が参加しています。

本校で力を入れている一つにキャリア教育の充実があります。文部科学省ではキャリア教育を「**一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育**」と定義しています。さらに、キャリア発達について「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」としています。

今年7月発行のPTA新聞でも職業観や勤労観を育てることが大事だと触れましたが、将来子どもたちの多くは他人や社会と関わり職業に携わって生きていくことになります。人間関係を形成していく力や課題に対応する力などが求められます。

今回のものづくり体感事業では、群馬県技能士連合会から建築板金、建具、和裁、タイルの職種から26人の技能士さんが来校されました。技能士とは技能の水準を証明する国家試験の合格者に与えられる称号です。子どもたちは4、5人のグループになり、技能士さんから直接指導を受け銅版彫刻、ミニ障子、巾着袋、コースターづくりに挑戦しました。子どもたちの表情はものをつくる楽しさで輝いていました。

将来、技能士を目指す子どもがいるかもしれません……。楽しみにしたいものです。



銅版彫刻



ミニ障子



巾着袋



コースター

